一般質問

茶畑の荒廃が目立ちます

町民アンケートを実施し町づくりを進めては

答　大綱に沿った町づくりを

問　農本規仁

執行部は、条例や予算を自らの判断と責任で管理及び執行しなければならないが、介護公社が社協へ、スクールバス、町民バスが指定管理者へ移行などの結果しか町民は知らされていないが。

地域担当職員を活用し、アンケート実施の考えはないか。

答　町長

平成十八年に行政改革大綱を作成し、事務事業の見直し、コスト削減に取り組んでおり、行政改革委員会に、意見を伺い改革につなげていく。

問　農本

効果の怪しいタスポの導入でタバコ税の減少が考えられる。町長選、町議選で六カ月ずらし、一七〇〇万円の経費を使う必要があるのかとの意見も耳にする。

町内には、行政経験の豊富な方も多いが、意見を広く聞く場を設けては。

答　町長

合併前の各町村の経過や引き継ぎなどあり、大綱に沿った町づくりを進めていく。

町長、町議選を同時に行えば、1700万円経費が浮くが…(開票所)

佐高通学者に援助を

答 協議していく

問 農本

仁淀高統合で佐川高が地元となるが、仁淀から往復一八〇〇円も負担がかかる。県は奨学金や、通学費補助も検討するといっていたが、通達なりあったか。

答 教育長

二十一年から三年間、通学支援の奨学金の制度化以外なく、県から、寮、スクールバスは不可能と返事があった。

三年経過後、町単独で通学支援の奨学金制度など検討していく。

問 農本

石油製品、食料品の値上がりの中、どの家庭も厳しいが、通学に月五万四千円かかり、送り迎えの負担が軽くなる高知、佐川などへ現実に転出している。県や高校と連携し早めに対応を。

答 教育長

一番近い学校として大事だが、財政面、民間業者との関係などあり、対策協議会で協議していく。

問 農本

県内高校の学区制廃止に対する考えは。

答 教育長

県内中学生の40％は高知市にいる。目指す高校に行けない者は、通学可能な近辺の高校へ。郡部の高校は、生徒数確保が非常に厳しくなると考える。

仁淀高が無くなると佐川高が一番近い高校となるが、通学費の負担は重い
（佐川高　ソフト部）

議長一口メモ！

目先の欲に目がくらみ我を見失うことは誰にでもある。そこからどのように考え、行動するかが人間性だと思う。

中国産のギョーザやうなぎが食の安全に赤信号を点滅させ国産が叫ばれる中、日本でも食肉の産地偽装や不当表示が続発、責任者は偽装を認めず部下に転嫁する始末。

自分のしたことや言ったことには責任が持てる人間になりたいものだ。

宙に浮いた年金問題や後期高齢者医療制度の改正が待たれる中で原油高騰による物価高。

漁師は“漁に出られない”とストライキ、家計は火の車、“このままでは生活ができない”と悲鳴が聞こえてくる。

大分県の教員採用にからむ贈、収賄事件等暗いニュースばかりだが、これまで以上に頑張ろう、と燃えてきた。

若藤　敏久

後期高齢者医療制度
住民は理解していると思うか

答 思っていない

問 福原克彦

四月にスタートした制度の説明責任を質問したが、広報に掲載、全戸にチラシ配布だった。住民への周知は十分か。理解されていると思うか。

答 町民課長

各地区老人クラブ総会などで説明は行った。町の広報には限界があり、国がテレビなどで周知していれば十分に理解されていたと思う。

答 税務課長

思っていない。保険料は個々で条件が異なるが、大きな混乱はなかった。

答 保健福祉課長

基本健診が特定健診に変わり、吾川、池川で混乱が若干あった。国の周知も十分でなかった。

問 福原

中国四川省の地震は大

地震対策は十分か

答 自主防災加入率は22%

問 福原

災害となったが、本町の地震発生時の自助、共助の取り組みは。

答 副町長

自主防災組織は、現在九組織で、世帯の加入率は約22%となっている。

広報などで周知に努め、区長会や消防団幹部会、地域担当職員制度を活用し、取り組む。

問 福原

地震の初期対応となる二十四時間の危機管理体制は。道路寸断時の対応と平時の体制は万全か。

答 総務課長

震度四以上で、勤務時間に関わらず配備体制を取る。消防団は道路事情により、団長、副団長等に配付の消防無線で、指揮をする。

十八年度から五カ年での計画的食糧備蓄は。

答 総務課長

非常食は三〇〇〇食、毛布は六五〇枚、自主防災組織ごとに炊き出しセットなどを備蓄。

「缶送り」7月13日、炎天下団員228人が集合、消防夏季大会が開かれた。(正ノ石)

間伐は目標どおり行われているか

答 大きく下回った

問 福原

私有林は木材生産だけでなく国土保全、水源かん養、地球環境保全面でも貢献している。合併からの間伐目標と十九年度末までの結果を比較し、状況をどう総括するか。

今後の林業振興は、国産材による産地間競争の備えと思うが構想を聞く。

答 副町長

合併前の過去三年間の平均実績から年750haを目標とし、十七年度と十八年度は約800haで目標を上回り、十九年度は530haと大きく下回った。

木材価格の長期低迷で林業離れや、後継者不足などが要因と考えられ、人材の確保が急務だ。

森林資源の利活用が重要と考え、産直方式で競争に太刀打ちできる体制を目指し、地産地消に取り組む。

ふたば保育所新築工事など公共事業にも町産材を活用する。

19年度は達成率70%。組織の強化と改善が望まれる。
間伐風景（長坂山）

学力・体力テスト

学力の問題点はどこにあるか

答 家庭学習が十分でない

問 福原

二年目の全国一斉学力テストで、県内八教委管内の学校は事前練習をしたと聞くが、本町は。

答 教育長

やっていない。実力を把握し弱い部分に力を入れるものと認識。

問 福原

「競争より学びあい」と取ったが本町の学力の問題点をどう分析するか。また毎年実施の見解は。

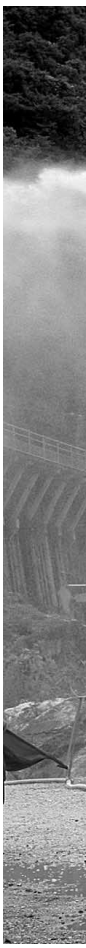
答 教育長

家庭学習が十分でない。夢や希望といった将来の方向を見据えることが課題で経年変化の把握も重要。

問 福原

文科省は運動面でも小学五年、中学二年の全員調査を七月までに実施。毎年実施の見解は。

答 教育長

子どもの体力低下が懸念され、運動能力と生活習慣、食習慣などがどう関係しているか、体力、運動能力の向上を図る方策を学校や家庭で検討し、経年変化を見ていく。

6月1日、一斉清掃。仁淀中（長者　バス停）